

渡良瀬川だより

No. 132

平成26年 1月 8日

国土交通省

渡良瀬川河川事務所

地域広報官

地域の安全・安心を目指し

渡良瀬川河川事務所長 堤 盛 良



ふ化したサケの稚魚に集まる白鷺

(写真：渡良瀬橋より)

平成26年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

今年は、渡良瀬川河川事務所が設置されてから50年目を迎える節目の年となります。50年前の昭和39年は、皆様もご存じのように、戦後日本史の中のエポックメイキングな年で、東京オリンピックが開催された年です。国土交通省の関連では、東海道新幹線が開業した年であり、伊勢湾台風による大災害をうけ、台風被害の軽減予防のために、台風の位置を早期に探知することを目的として、気象庁が富士山頂にレーダーを設置した年でもあります。

高度成長の真っ直中、日本中が熱を帯びていたそんな時代に、渡良瀬川河川事務所（当時は渡良瀬川工事事務所）は生まれました。河川事業を所掌していた渡良瀬川上流工事事務所（栃木県足利市）と、砂防事業を所掌していた渡良瀬川砂防工事事務所（群馬県旧大間々町）が統合され、昭和39年7月に、河川と砂防の両事業を所掌する現在の組織機構となったのです。

以来、渡良瀬橋の下を沢山の水が流れ、人々の価値観や地域の社会環境も大きく変わりましたが、国土交通省の出先機関としての最前線で地域の安全・安心を確保するという渡良瀬川河川事務所の使命は変わっていません。50年の節目の年を迎えるにあたり、この究極の使命を再認識し、次の半世紀に繋げていかなければと考えております。

今年の干支である馬は、人との付き合いが古い動物で、人の役に立ち、また人間も馬を大事に扱ってきました。渡良瀬川河川事務所が、干支である馬と人間の関係のように、地域の皆様のお役に立ち、また地域の皆様からも大事にされるような関係を築いていくことができれば幸いです。本年もよろしくお願いいたします。

「平成25年度 工事安全施工研究発表会」を開催しました

最優秀賞を「河本工業(株) 中村さん」が受賞



発表された皆さんと審査員

結 果

最優秀賞	河本工業(株)	中村 純一
優秀賞	河本工業(株)	矢島 祐樹
//	池下工業(株)	林 勝典
//	中村土建(株)	沼尾 祥太
奨励賞	大協建設(株)	丸山 修利
//	河本工業(株)	大島 亮一
//	(有)片柳建設	岡野 健
//	(株)戸 室 組	遠藤 博行

前列左から

遠藤・岡野・矢島・林・堤事務所長・
中村・沼尾・丸山・大島

建設労働災害が多発する中で、建設工事等の工事現場における安全対策においても、これまで以上にその取り組みが重要な課題となっています。平成8年に発生した蒲原沢土石流災害では多くの方の尊い命が失われました。この災害の教訓を風化させず、安全施工技術のさらなる向上を目指して渡良瀬川工事安全協議会では、平成11年度より「工事安全施工研究発表会」を実施しており、平成25年度は12月17日に関係者約100名が出席し開催しました。

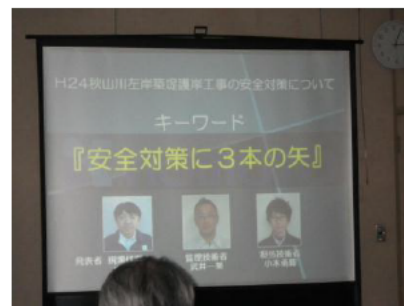
当日は、今年度の対象工事45工事のうち、29工事から応募があり、事前に予選を行い8工事により発表会を行いました。

審査においては、桐生労働基準監督署長、栃木県安足土木事務所長、群馬県桐生土木事務所長の外部審査員3名と事務所長、副所長2名による6名により、施工条件や現場における配慮、積極的な取り組みや創意工夫、安全対策の効果や有益性等について審査を行い、「H24秋山川左岸築堤護岸工事における安全対策について」発表を行った河本工業(株)中村さんが最優秀賞となりました。

また、平成26年2月7日に関東地方整備局で行われる「砂防関係工事安全施工研究発表会」には、事務所の代表として池下工業(株)の林さんが発表した「H24関守二号床固工事における安全対策について」(砂防関係工事発表)を推薦することとなりました。



堤事務所長の挨拶と会場の様子



最優秀賞の中村さんと発表の様子



イノシシについて学ぼう

- 繰り返される堤防の掘り返し被害を防ぐために -



渡良瀬川のイノシシ被害

渡良瀬川では、平成22年以降、イノシシによる堤防の掘り返し被害が増加しています。

その被害は、渡良瀬川と桐生川の沿川を合わせて（被害の規模の大小はありますが）年間で300箇所を超えています。

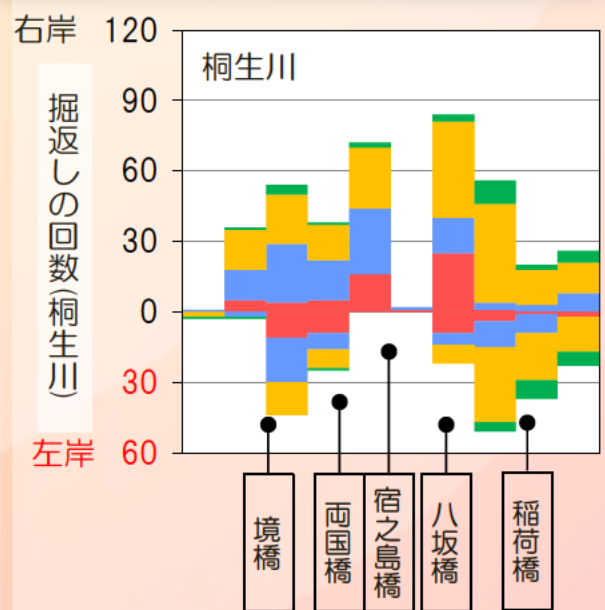
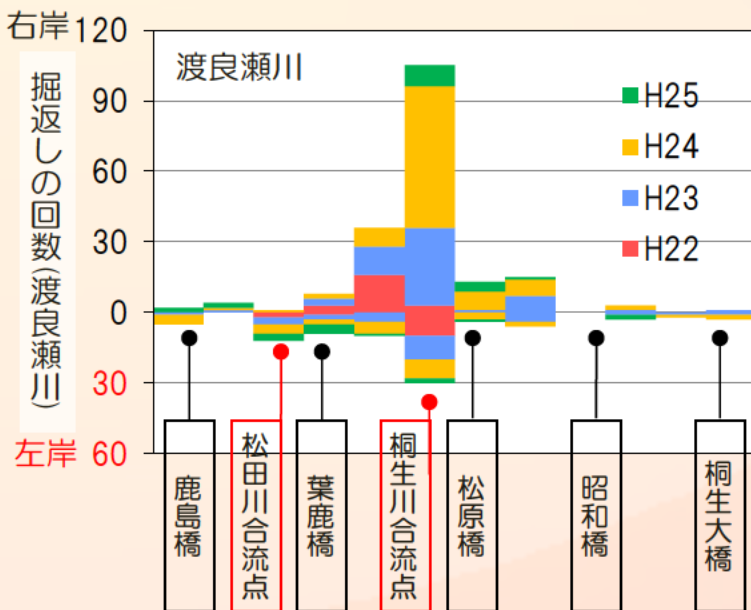
堤防表面の植生が多少荒らされる程度のもから、40cmもの深さまで掘り返されてしまう場合もあります。

堤防の表面の土があらわになったり、穴が開いてしまったりした場所は、洪水のときに水があたると、そこが弱点となり、破堤につながる恐れがでてきます。

下のグラフは、平成22年～平成25年6月までの、掘返し被害件数をまとめたものです。



渡良瀬川堤防の被害状況



イノシシQ&A



Q：イノシシは夜行性？（答えは次ページにあります）

イノシシは警戒心が強いいため、基本的には、昼間は人間に見つかってしまう場所には基本的に出てこない。1日中食べて寝てを繰り返している。

効果的な対策のために

点在して数多く発生する被害に、堤防の補修が追いついていないのが現状です。この状況を改善するために、どのような対策が効果的か、イノシシなどの生態の研究を行っている ●小寺先生を渡良瀬川に招き、アドバイスをいただきました。

イノシシってどんなやつ？

・警戒心が強い動物 だが…

昼間に人前に姿を見せるといのは、警戒心が低下している証拠で、人慣れやそこを居住範囲と認識しているため、今後の被害拡大の恐れがあります。

・複雑な形・構造物を嫌う

アミによる防護やコンクリートの護岸等には効果があります。

・一度食べたものや場所は覚えている

同じような箇所を何度も荒らされるのはこのため、山の中よりもおいしいものがある人里に出てくるようになっていきます。

・知能は犬並み

名前をつけて呼んでいると、自分の名前を覚え、自己を認識する知能がある。



部分的にある藪や家の庭木などを隠れ場所として移動する

先生紹介！

●小寺 祐二（こでら ゆうじ）

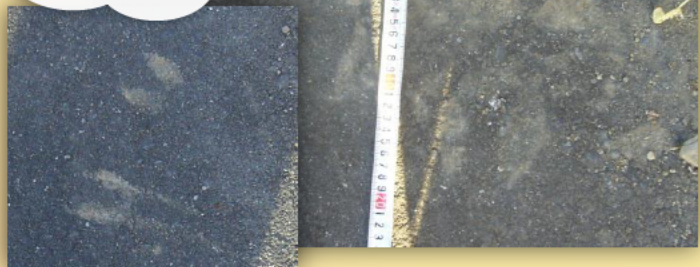
宇都宮大学 農学部附属里山科学センターで、特任助教として野生動物管理学の研究をされています。イノシシの研究をしている数少ない先生の一人です。

（イノシシQ&A 答え：昼行性）

小寺先生から
イノシシの生態について
レクチャーを受ける



舗装路面上の
イノシシの足跡
“フィールドサイン”



対策として

前述の警戒心の低下してしまっているイノシシに対しては、狩猟や捕獲による対応しかないとのことですが、その他については、藪の解消によってイノシシの移動経路をなくすことが効果的であるというアドバイスをいただきました。

これを受けまして、桐生川において試験的な藪の伐開を行い、どのような効果が得られるか、経過観察を行っていきます。



渡良瀬川河川事務所では台風などの洪水に備え、平常時の堤防巡視を実施しています。

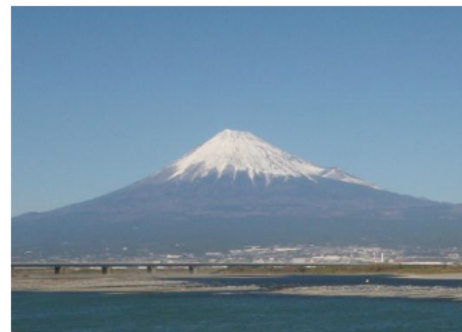
堤防や護岸などに異常を見つけたときは、下記までご連絡をお願いします。

【連絡先】渡良瀬川河川事務所 管理課 維持係（0284-73-5557）

治水の歴史深き富士川の紹介

○富士川流域の概要

富士川は鋸岳（2,685m）を源流とし、甲府盆地を経て駿河湾に注ぐ流路延長128kmの一級河川です（渡良瀬川の流路延長は107.6kmです）。川の勾配は非常に急であり、日本三大急流河川（他2河川は最上川、球磨川）の一つに数えられています。また、流域内の地盤が崩壊しやすい地質となっており、一度の大雨で大量の土砂が流出して河川内にたまって氾濫の原因となるため、土砂の流出を防ぐための砂防事業も実施されています。



富士川河口部からの富士山の眺め

○治水に係る取組み

富士川流域では戦国時代から治水事業が行われています。そのうち、代表的な施設を紹介します。

＜信玄公による治水事業＞

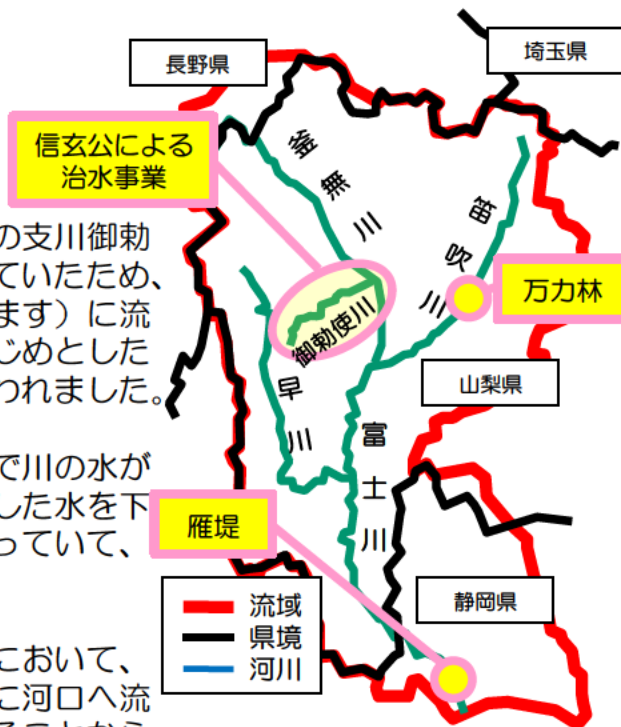
戦国時代の武将武田信玄公による取組みで、釜無川の支川御勅使川は度々の増水で釜無川を横切って市街地へ氾濫していたため、流路を新たに開削して大きな岩壁（高岩と呼ばれています）に流水をぶつけて水の勢いを弱めるとともに、信玄堤をはじめとした洪水防御のための堤防を各地に設けるなどの事業が行われました。

＜万力林（まんりきばやし）＞

戦国時代末期頃に設けられた樹林帯であり、笛吹川で川の水が氾濫した際に樹林帯で流木や土砂の流出を防ぎ、氾濫した水を下流にある霞堤の開口部から再び河道内に戻す構造になっていて、現在は河川公園として利用されています。

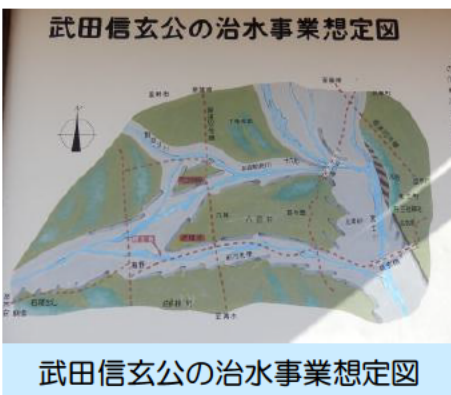
＜雁堤（かりがねづつみ）＞

江戸時代初期に設けられた堤防で、富士川河口付近において、写真のように堤防をつくり、流水の勢いを弱め、安全に河口へ流下させます。高い所から見ると空を飛ぶ雁の形に見えることから雁堤という名になっています。



富士川流域と歴史的治水施設

武田信玄公の治水事業想定図



武田信玄公の治水事業想定図



万力林



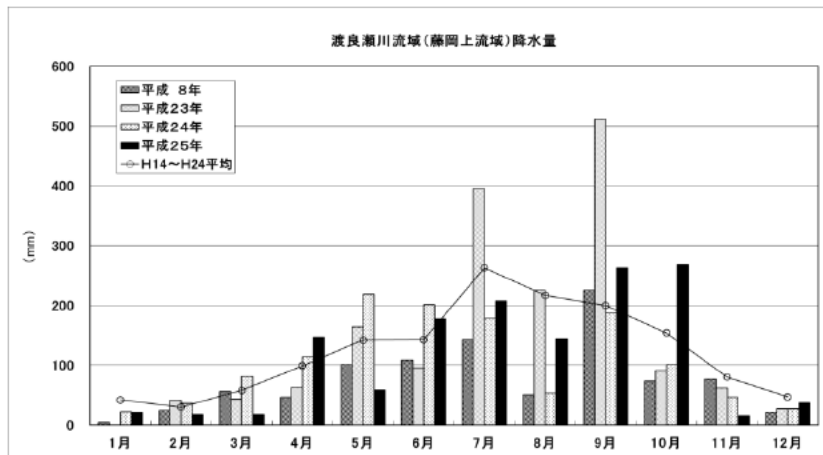
雁堤

これら治水に係る諸々の取組みから、先人方の知恵と多大な尽力により、現在の河川管理が成り立っているのだと痛感しました。流域の地形状況に応じた、地域ならではの取組があることを知ることができました。

○渡良瀬川流域の降水量

12月の渡良瀬川流域（藤岡上流域）の降水量は37.2mmとなっており、平成14年から平成24年の平均降水量と比べ約79%となっています。

◆藤岡上流域とは
渡良瀬遊水地から上流域



○草木ダムの貯水状況

1月8日現在、貯水位はE L 440.59m、貯水量は30,487千m³で貯水率60.4%となっています。

■ E L : 海拔標高

写真は1月6日時点のものです



展望台より撮影

誌面についてのご意見や感想をお待ちしています。パソコンからは渡良瀬川河川事務所ホームページの「お問い合わせ」から投稿していただけます。電話・FAXは下記番号へ、郵便の場合は下記住所「渡良瀬川河川事務所 地域広報官」あてでお願いします。



国土交通省関東地方整備局
渡良瀬川河川事務所

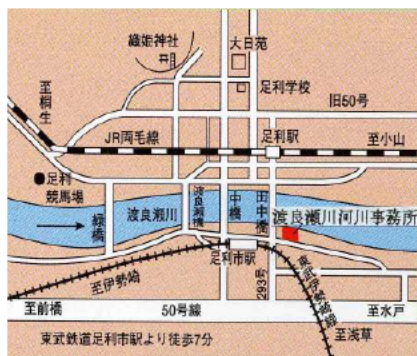
〒326-0822
栃木県足利市田中町661-3

<http://www.ktr.mlit.go.jp/watarase/>
TEL 0284(73)5551
FAX 0284(73)5582

川の防災情報
リアルタイムの雨量と
水位を知りたい時は
<http://i.river.go.jp>



【案内図及び連絡先】



総務課	0284(73)5551
経理課	0284(73)5552
用地課	0284(73)5553
工事課	0284(73)5554
調査課	0284(73)5555
防砂課	0284(73)5556
管理課	0284(73)5557
佐野河川出張所	0283(21)6810
桐生出張所	0277(44)3724
足利出張所	0284(71)2202
大間々砂防出張所	0277(72)1664
足尾砂防出張所	0288(93)2151